

03

解剖学

10年の足跡(主に30周年以後のあゆみ)

解剖学分野は昭和55年、福井医科大学解剖学1講座として教授・野条良彰、助教授・渡邊憲二で開講した。その後、助教授・准教授として青山裕彦、玉巻伸章、浅本憲、飯野哲、堀口和秀が在籍し、平成22年より飯野が教授として運営している。教室スタッフとして堀口和秀(平成16年－現在)、伊藤哲史(平成13年－平成29年)、堀口里美(平成22年－現在)、橋本隆(平成26年－平成31年)、尾内隆行(平成29年－現在)が在籍している。これまでに研究室の名称は「解剖学1」「人体解剖学・神経科学領域」と変更され、平成28年より現在の「解剖学分野」となっている。

教育および研究を支える技能・技術職員として、宮越久行(平成13年－令和2年)、中出博之(平成14年－現在)、橋本隆(令和2年－)が御遺体関係の仕事や人体解剖学実習の補助を行っている。教室の事務研究補佐としては吉村良子(平成16年－現在)、松浦あすか(平成25年－令和元年)が在籍している。

研究

人の体のつくりや生物の構造を極める研究室として肉眼で観察するのはもとより、様々な顕微鏡を用いて生物の作りの解明に取り組んでいる。消化管運動の形態学的基盤を確立すべく消化管筋層を構成する細胞群を組織細胞学的・生理学的・分子生物学的に研究することを中心としており、カハール介在細胞ICCおよび線維芽細胞FLCの特性について解明を進めてきた。また、哺乳類聴覚回路の神経解剖学的研究として下丘で行われている情報処理機構の解明に取り組んで来た(主に伊藤)。脊椎動物頭部の進化史、特に無脊椎動物(主として頭索類、半索動物、刺胞動物など)からのトランジションを個体発生過程での変容についての研究も進めている(主に尾内)。

教育

本分野は、医学科の教育として「人体解剖学」として肉眼解剖学全体(中枢神経解剖学を除く)、「個体の発生」として人体発生学の教育を担っている。人体解剖学では約40回の肉眼解剖学実習(含骨学)を全教員が指導している。平成28年度に医学科カリキュラムが変更になり人体解剖学を1年生で開講し、現在前期に14コマの講義と4コマの骨学実習、後期に31回の解剖学実習を行っている。解剖学実習にあたっては献体や福井大学しらゆり会の説

明、慰霊碑参拝、御遺体安置、納棺等も実習として行っている。個体の発生は14コマの講義と実習を2年生後期に行っている。他に「医学英語2」として欧米の解剖学実習書を用いた講義、「基礎生物学」のチューターを担当している。人体解剖学教育の一環として、局所解剖学実習として高学年学生および臨床科所属の教員・大学院生などが参加し、人体構造の学習研究を行っている。

看護学科1年生の解剖学教育(形態機能論Ⅰおよび形態機能論実習)も担当し、前期に講義、後期に人体解剖学実習を医学科学生と共に行っている。また、医療系学生の人体解剖学学習の一環として、解剖学実習中の御遺体臓器見学を毎年行い9大学等12学科の学生に指導を行っている。その他、大学院医学系研究科の医科学基礎総論および医科学特論を担当している。

社会貢献・グローバル

社会貢献活動としてライフサイエンスイノベーションセンターによる高大連携活動の中心として取り組み、「次世代科学者育成プログラム」「ひらめき☆ときめきサイエンス:医学研究の最前線の扉を開こう!」「サイエンス・パートナーシップ・プログラム:体の軸となる脊椎と脊髄」「グローバルサイエンスキャンパス:生命医科学フューチャーグローバルサイエンティスト育成プログラム－“Fukui Medical High School”としてのRole Model創成)を実施し、福井県内外の高校生に生命医科学実習等の指導や講義を行った。

「福井大学しらゆり会」の運営と献体実務の主体となり、献体御遺体の受け入れや処置、御遺族との対応など教室を挙げて関与し、献体者の遺志に応えている。

今後の展望、これからの10年

これまで本分野では各研究者独自の考えを重視し固有の研究を展開し発展させてきた。今後も各自の発想を重視しつつ分野全体として協調して研究を推進したい。また本学における解剖学教育に責任を果たしつつ、医学看護学分野でのコアカリや分野別評価等に適合した教育により医療人育成に携わることとしている。

(文責:飯野哲)